



はるかぜ図書館だより

つくば国際大学東風高等学校 図書館 2018年11月発行 No.7

みなさん、こんにちは！11月も半ばとなりました。日に日に秋も深まり、木々も紅く色づいています。それだけで、いつも通っている道でもなんだか違う場所のような気がしますね。

二年生は修学旅行お疲れさまでした。初めて沖縄に行くという人も多かったのではないのでしょうか。楽しかった場所や印象深かった出来事など、たくさん話を聞かせてください。

さて、今年もいよいよ残すところあと一か月とちょっとです。年末にかけて世間も忙しく、慌たしくなっています。トラブルに巻き込まれたりしないよう、充分に気を付けて欲しいなと思います。風邪なども引かないよう、体調管理もしっかりとしていきましょう！

百人一首のハナシ

今回は、小倉百人一首の中でもとても有名な秋の歌をご紹介します。

ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは

小倉百人一首・第17番 在原業平朝臣 (825~880年)



【現代語訳】（不思議なことが当たり前になっていたという）神々の時代から聞いたことがない。竜田川の水を（紅葉した葉っぱが）鮮やかな深紅色に染め上げるなんて。

木から落ちた紅葉が水に浮かんで、川を真っ赤に埋め尽くす光景が思い浮かびますね。

とても臨場感のある描写ですが、この歌は実際に竜田川で詠まれたわけではなく、竜田川に紅葉が流れている様子を描いた屏風を見て詠んだ歌とされています。天皇の妻となった業平のかつての恋人・二条后のために詠まれた歌であり、「私の心もこんな風に紅く染まっているんですよ」と、業平の隠された恋心を暗に彼女に伝えているのだそうです。

作者の在原業平は「むかし、男ありけり」でおなじみの『伊勢物語』の主人公のモデルとされています。平安時代を代表する歌人であり、恋愛経験も豊富な美男子だったそうです。日本では三大美女としても知られている小野小町も、業平に恋をしていたという説があるようです。

色彩感あふれる秋の美しい風景に重ね合わせて自身の秘めた想いを詠んだ、華やかで情熱的な一首のご紹介でした。

* 後期図書購入希望調査を行います *

11月下旬～12月上旬にかけて、図書の購入希望調査を行います。

調査用紙は後日配布しますので、図書館に置いて欲しい本がありましたらそちらに必要事項を記入して提出してください。

また、今回は購読する雑誌も見直そうと考えているため、図書館で読みたい雑誌のリクエストも受付する予定です。読みたい本や雑誌があるか、考えておいてください。

今月のおすすめ

星の子 著：今村夏子

主人公・林ちひろは中学3年生。出生直後から病弱だったちひろを救いたい一心で、両親は「あやしい宗教」にのめり込んでいき、その信仰は少しずつ家族を崩壊させていく…。

第39回 野間文芸新人賞受賞作。

自分の娘を愛する気持ちが、そのまま宗教の信仰心へと繋がっていく両親の姿は脆いようで、どこか強くもありました。この家族の生き方に賛否は別れると思いますが、人の幸せを自分の物差しだけで測ることはできないのだと思います。色々と考えさせられた一冊でした。

* 勤労感謝の日 *

11月23日は勤労感謝の日です。仕事をして一家を支えてくれている両親に「ありがとう」と言って、プレゼントを贈ったことのある人も多いのではないのでしょうか。しかしそれは本来の勤労感謝の日の捉え方とは少し異なっているようです。

戦前まで11月23日は『新嘗祭（にいなめさい）』という祭日でした。皇室に関わる祭典の中でも特に重要と言えるもので、現在でも皇居では11月23日に新嘗祭の儀式が行われています。今年の実りを神にささげ、五穀豊穡を天皇みずから祈るという行事で、一年の「勤労の成果」を神様に認めてもらい世の中の安寧をお祈りするのだそうです。宮中だけでなく、全国各地で新嘗祭は行われており、要するに元々は「収穫祭」のようなお祭りだったわけですね。

それが戦後『勤労感謝の日』として祝日となり、農業従事者に限らず、広い意味で「勤労を価値のあるものとして重んじ、一年の生産を祝い、日々の労働に感謝をする日」となったそうです。

学生のみなさんにとっての勤労はやはり勉強でしょうか。当日学校はお休みですが、日々学校に通えて勉強ができることに感謝しつつ、テスト勉強や受験勉強に励んでもらえたらと思います。

